



3

0023496-000

524-647

満蒙経営論

阪東宣雄・著

政教社

昭和2

ADD

この著作物は、著作権者不明のため、著作権法
第67条の規定に基づき、平成12年5月15日
付けで文化庁長官の裁定を受け使用するものです

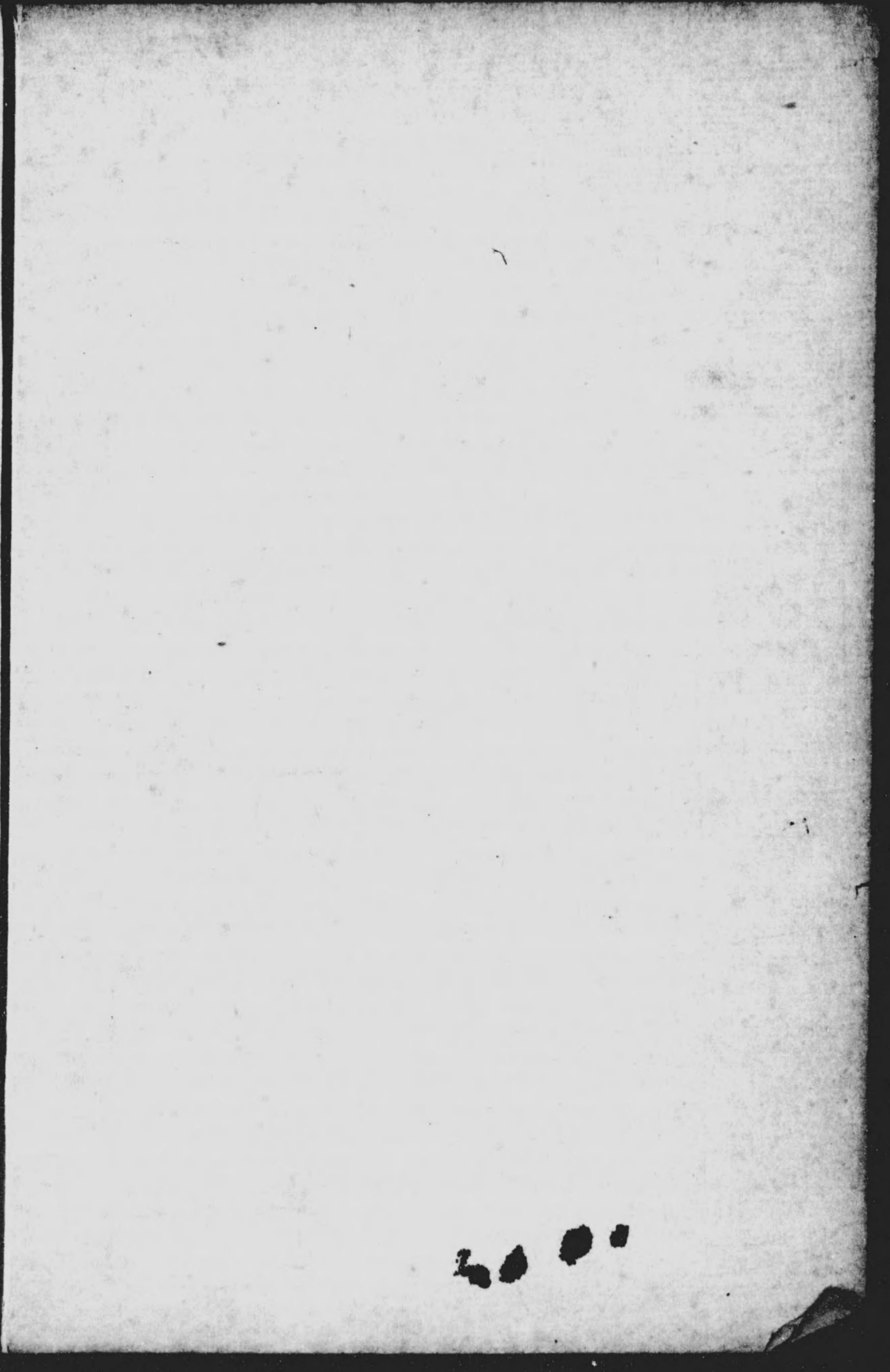
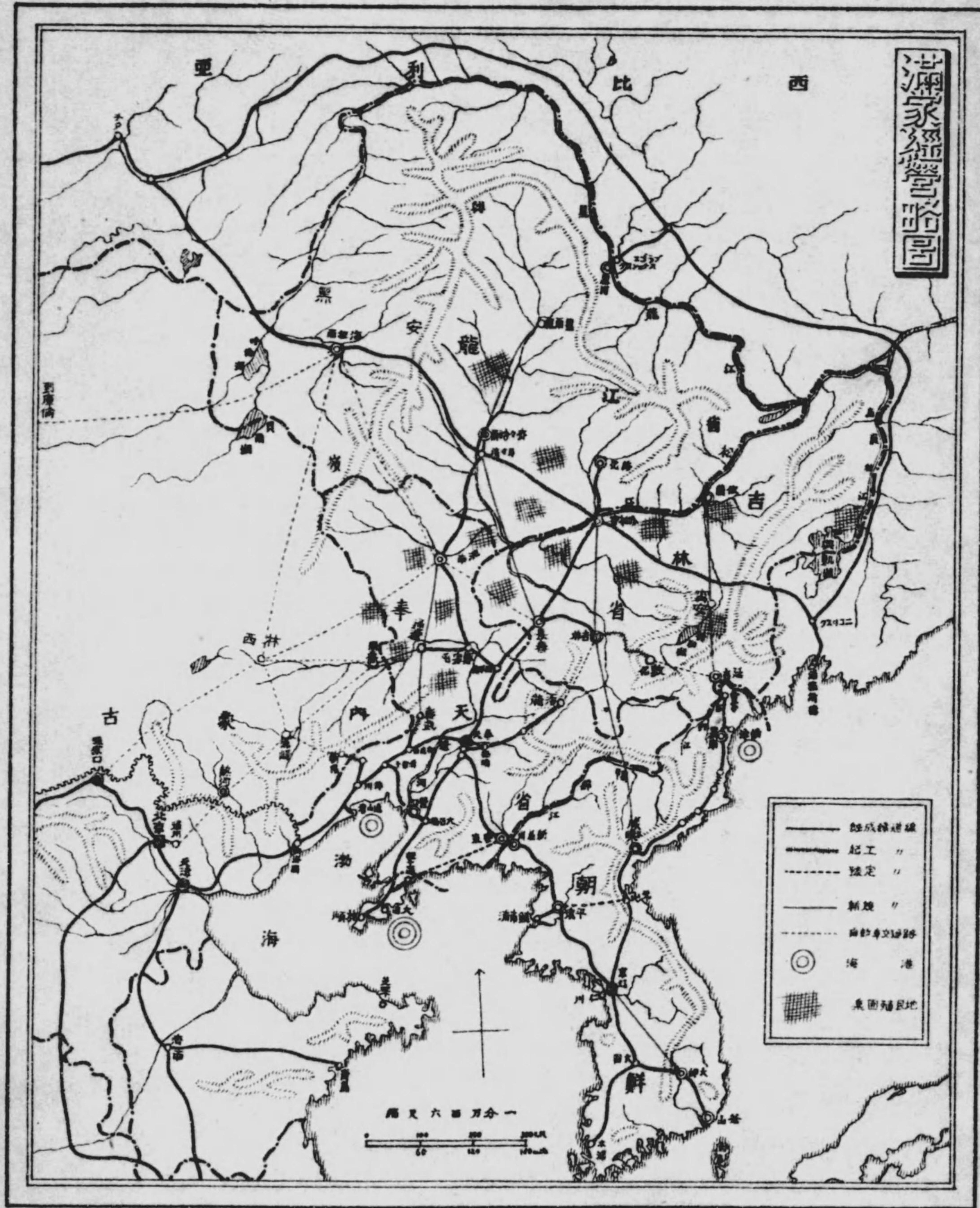
524

647

如呈

阪東宣雄著

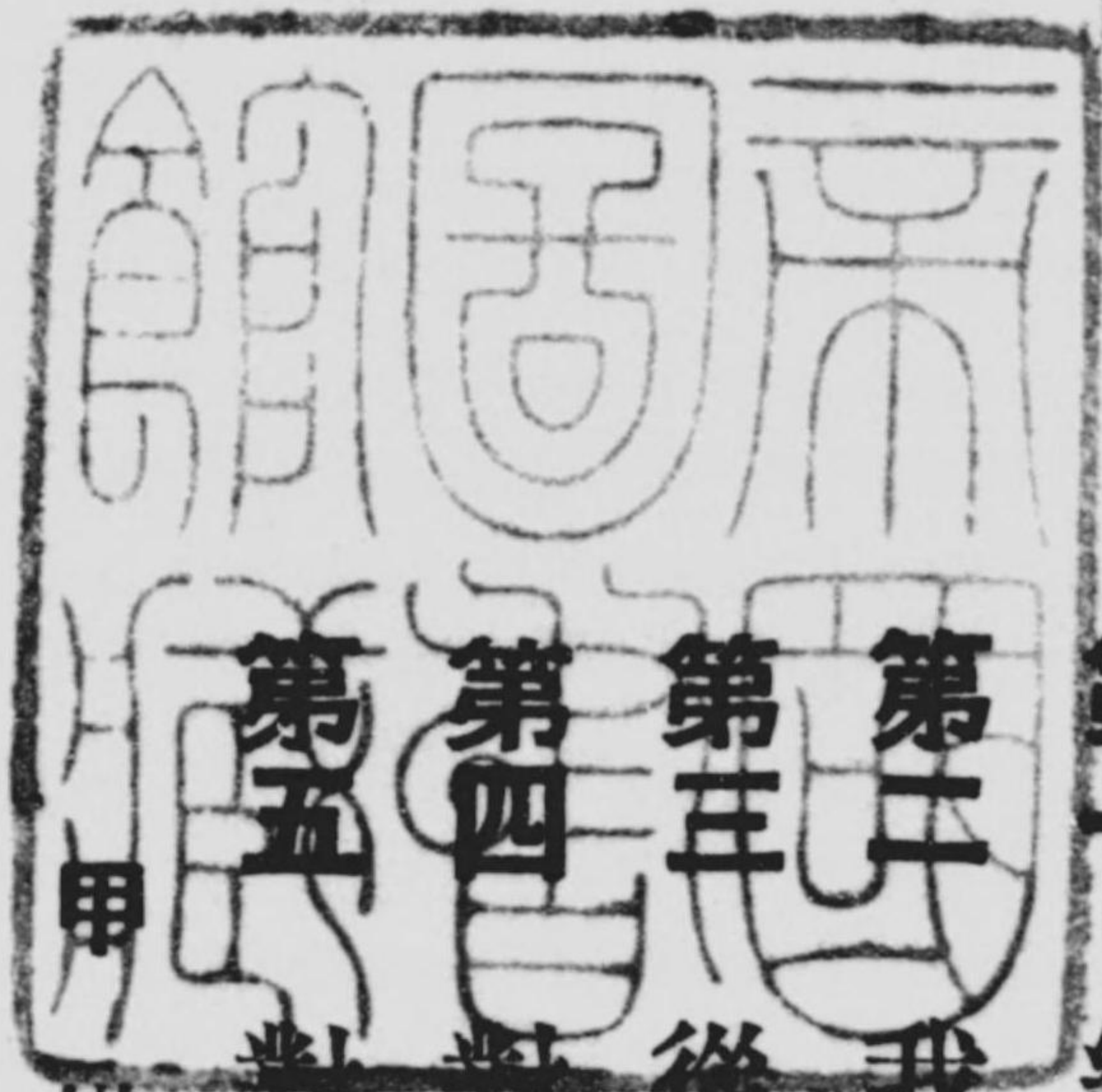
滿蒙經營論



524-647

目次

第一	緒論	(一)	頁
第二	我が傳統的國是	(五)	
第三	從來の四大失策	(八)	
第四	對策の一 統制	(一三)	
第五	對策の二 交通	(一五)	
甲	鐵道	(一八)	
乙	道路	(二四)	
丙	海口	(三五)	
目次				一



著者寄贈本

第六 對策の三 移民……………(二六)

 甲 大體論……………(二六)

 乙 局部論……………(二八)

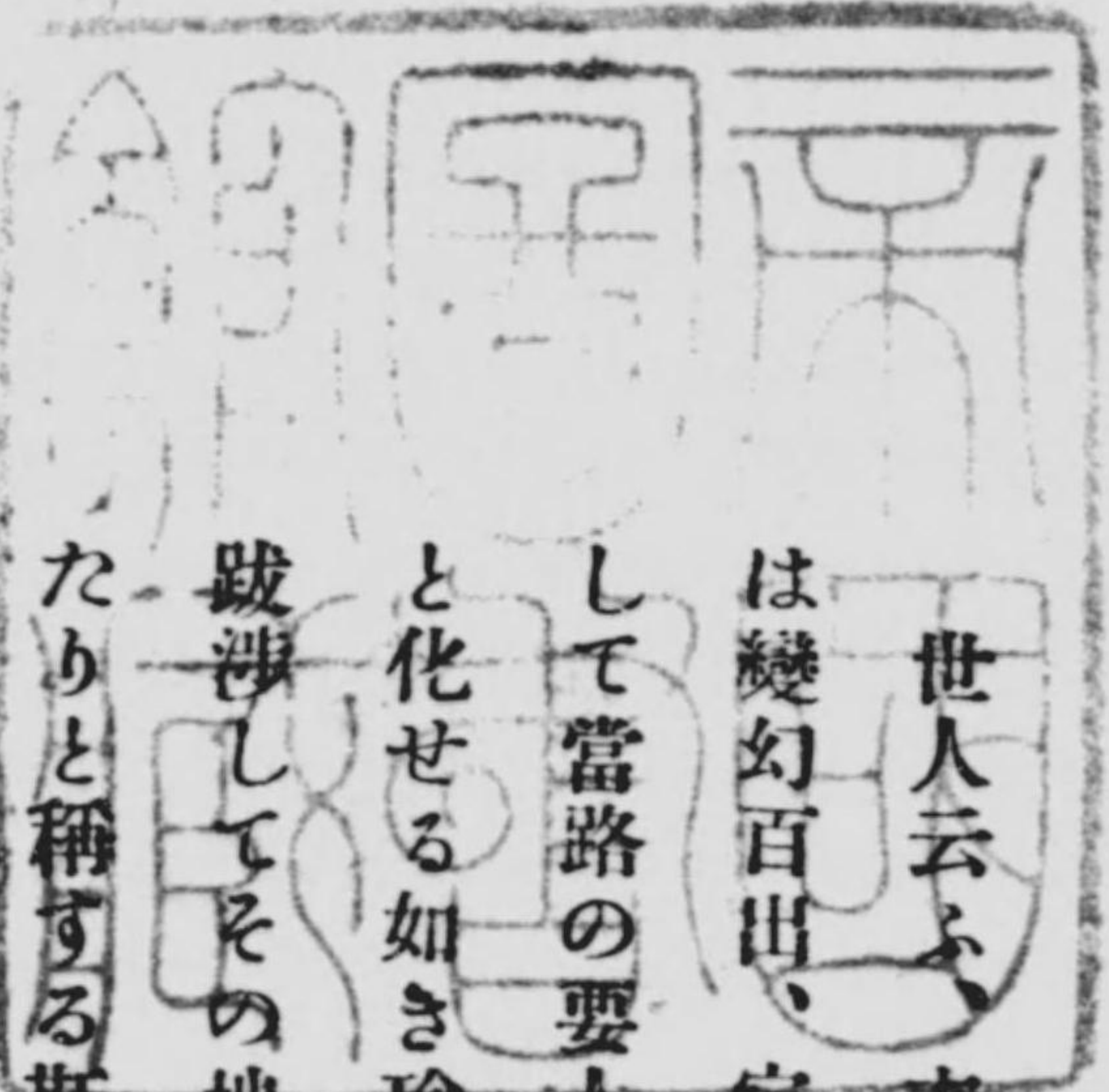
 丙 集團移民論……………(三三)

第七 對策の四 産業……………(三七)

第八 結 論……………(三九)

滿蒙經營論

第一緒論



世人云ふ、支那は謎の國である。徹頭徹尾不可解の國であると。然り、現代支那の時局は變幻百出、宛として走馬燈の如く、何人も旦に夕を測り得る者はない。その南北を一巡して當路の要人と會し、相當の消息通となつて歸朝したる者の報告が早く已に陳腐の舊話と化せる如き珍譚は、現に屢々耳にする所である。駐支數十年、四百餘州を隅から隅まで跋渉してその地理を諳んじ、深く支那人の内部生活に立入りて具さにその民族性を研究したりと稱する斯界の權威者と雖も、試みに一ヶ月後の時局の將來を的確に豫言し得る者が果して在るであらう乎。恁くの如きは世界のいづれの國家に於ても決してその類例を見ない所だ。結局支那のことは全く判らない。判らないと覺つたことが即ち判つたと云ふことになるのである。

近代の支那は定石を外れたる國だ。支那人の行動は定石以外に超越して居る。定石を知らない策士も打ち下ろす石は名人本因坊と雖も到底之を想定し得るものでない。然しかに策士と雖も大體の歸趨位は判る。乃ち支那の將來も之を大局的觀察よりすれば大凡の見當は付くであらう。國を建て、以來五千載、姓を易ふること二十餘代、治亂盛衰幾變轉、民人は單に自己あるを知つて國家あるを知らず。王公將相我に於て何かあらん、只我生命財産の安固あるのみと。是れ彼等が唯一の信條である。族制自衛の觀念、惜命愛錢の精神、是れ彼等が民族性の全部である。清室の治世三百年、命數已に盡きて民國革命起る。革命の標語は三民主義と云ひ、軍閥打破と云ふ。或は共產主義を唱へ、民族自主を論じ、而して帝國主義の打倒を叫ぶ。言や甚だ善し。少數の自覺者は固より之あるべし。然れども軍閥の巨頭にして眞に革命の意義を解する者果して幾人ある乎。四億の民衆にして能くその主義精神を覺れる者果して幾何ある乎。革命の大業は容易のことでない。全支統一の理想の如き遂に何れの日にかその成功を見ん。誠に心元ない限りである。

最近中支方面に起りたる動亂は列國既得の權利を侵害すること餘りに甚しかりき。始め

は排英を以て起り、次で婉曲なる排日に及び、長江一帶に於ける我帝國の經濟的基礎は全然その根柢より破壊し去られた。我輩は之に對して頗る議論を有するも、本論の趣旨より見て姑らく之を措くの外はない。但し是れ丈けのことは言ひ得る。元來自分は南守北進論者である。即ち南方に於ては現状維持を主とする。現状維持の爲めには先づ以て破壊せられたる現場の恢復を計らねばならぬ。之が爲めには列國と協調するもよろしい。若し列國にして協調を喜ばないならば日本は單獨にても必ず之を解決せねばならぬ。是れは言ふ迄もないことだ。然れども北方殊に滿蒙に至つては單に現状維持だけでは濟まされない。百尺竿頭更に一步を進めて大に經綸を行ふべき必要がある。滿蒙は日本の特殊範圍に屬し、南方とは大にその事情を異にする。苟くも事滿蒙に關するに於ては世界の何國と雖も斷じて一指を染むるを許さるべきでない。

蓋し滿蒙問題は我帝國の傳統的國是である。即ち所謂根本國策だ。帝國外交の運用はすべて此根本國策を基調として進まねばならぬ。凡そ如何なる國家の外交と雖も、必ずや夫れ相當の根本國策を有つて居る。例へばその國際的地位に於て、若くはその國內的事情に

於て、我日本と最も能く近似せる伊太利を見よ。彼れはアルバニアの保護に依つてアドリア海を完全に支配すると同時に、アフリカ北岸の地歩を鞏固にして、舊羅馬大帝國を再現せしめんと努力しつゝあり。彼が西班牙と結び、或は羅馬尼と契合してベツサラビア條約を是認し、若くは英國の對支出兵に對して第一に諒解を與へたる如き、皆その根本國策の現はれに外ならぬ。

帝國外交の基調は過去二十年間日英同盟の上に置かれて居た。該同盟の廢棄と同時に太平洋協約(四國協定)が現はれ、次で支那に關する九國條約が成立した。我霞ヶ關は此二條約を帝國外交の新基調として正直眞ツ法に守つて御座る。守ることも悪くはないが元來外交は活物だ。國際間の事情は刻々に變化して止まない。現に英米の如きはその案の是非は且らく別問題とし、臨機應變盛んに對支政策の新機軸を出して居るではない乎。

一體四國協定と云ひ、九國條約と云ひ、畢竟態のよい日本監禁規定だ。日本はいつ迄こんなものに監禁されて堪まること乎。然し之より脱却するの活路は斷じて滿蒙問題の外にあるものでない。

第二 我が傳統的國是

日本の滿蒙に對する特殊關係は極めて重大にして、且つ深遠なる幾多の理由を備へて居る。先づ第一にはその歴史的關係である。第二にはその地理的關係である。第三にはその人種的關係である。第四にはその國防的關係である。第五にはその經濟的關係である。凡そ此等の内その一と雖も既に偉大なる權威を有つ。況んや恁くの如く幾多の要目悉く具備せるに於てをや。要するに日鮮滿蒙の四者は渾然として單一體を組織すべき天數的因縁を具して居る。所謂切つても切れない特殊の間柄であるのだ。

日本と大陸との抱合統一は太古以來我日本の傳統的國是である。遠くは神代出雲氏族の徂徠連絡より、三韓肅慎辣羯に至り彼我の交渉千有餘年に及ぶ。近くは征韓論を始め日清日露の二大戦役は抑々何の爲めに行はれたる乎。皆是れ歴史的、地理的、人種的に相交錯したる特殊關係を基調とせし傳統的精神の現はれに外ならぬ。此理由が判明すれば現代支那と雖も決してその承認を拒む筈はない。漢人の多數移住したるは僅に過去二三十年の事

實である。滿人出の清室が全支那に君臨して始めて五族合邦の國家を成したるも、その清室の亡ぶると同時に滿漢の連鎖は一先づ断たれて居る。況んや蒙回藏の三大族も亦既に漢人より分離し獨立して居るではない乎。然し我輩は今直ちに滿蒙を日本の領土に併合せよと云ふのではない。經營の方法は自ら別に途がある。此等に關する具體的意見は更に後段に於て之を述ぶるであらう。

從來滿蒙問題に關して常に我霞ヶ關の頭痛の種となれるものは實に英米二國の態度であつた。彼等の頭腦にはいつも英米崇拜熱と、その恐怖病との微菌が充滿して居た。日英同盟の廢棄と同時にワザ／＼華盛頓まで出かけて四國協約にウント取つちめられ、更に第一軍縮會議に於て手も足も完全に挽ぎ取られ、この東海の一小孤島内に密室監禁の憂目を見せられて以來、始めて漸く眼が覺めかけた。今度の支那問題に對して從來の英米追隨政策より離脱せんとしたる態度は確に一轉期を劃するものと稱すべきである。然し夫れはまだ僅に一隻眼を開き得たに過ぎない。追隨外交より指導外交に移れとは今日の輿論だ。指導外交は我に根本國策あつて後始めて出來得ることである。即ち滿蒙國策を確立するの大決

心に出づるに非ざれば決して兩眼の明を得たとは云はれないのである。

然るに茲に一つ警告を要する先決問題がある。外ではない、我霞ヶ關の滿蒙に對する見解は甚だしく消極的且つ退嬰的だ。日本の特殊地位とは唯滿鐵一本だけのことだと心得て居る。滿鐵の附屬地内に十萬餘の日本人が居る。夫れさへ保護すれば夫れで政府の責任は濟むものと考へて居るらしい。彼等は華府會議で米國からギュー／＼虐められた體驗により、所謂羨に懲りて今尙盛んに脛を吹いて居るのだ。そんな小さな見では逆も滿蒙國策は問題にもならない。我輩は先づこの當局者の頭腦から改造してかゝらねば到底駄目だと斷言する。

一體英米は昔から一言居士の國である。世界のいかなる片隅に起れる出來事にせよ、彼等は何とか一言若くは數言せねば決して氣の濟まない連中だ。同時に亦彼等は相手方の腰の強サ加減に依つては存外素直に引込むこともある。此呼吸を呑み込んで居らねば非常な損失を自分から招くことになる。現に佛伊の駄々ツ振りを見よ。思ひ半ばに過ぐるであらう。若し日本が比律賓や印度をよこせとでも云へば或は眞劍になつて怒るかも知れない。

然し滿蒙が彼等に取つて果して何程の利害關係がある。要するに彼等が出酒張るのは畢竟日本の腰が弱いからだ。外交手腕の巧拙は即ち茲に在るではない乎。今や支那の現狀は露支の關係と相俟つて英米の諒解を要求するに絶好の機會を示して居る。グヅ／＼して居れば又復機會を逸して仕舞ふ。而して總決算の場合に再び彼等の小うるさき容喙を聞かねばならぬことにならう。實に困つたものである。

第三 從來の四大失策

上述の如く滿蒙に對する日本の特殊關係は頗る重大深遠なるに拘はらず、實際に於ける日本の現有勢力は果して如何と見るに、是は亦怎うしたこと乎、大きな聲でも云へないが實は我輩が諸公の觀察通り、全く滿鐵一本の外殆んど見るべきものはないのである。日清、日露の二大戰役を経て、數拾億圓の國帑を費し、幾十萬人の戦士を犠牲に供して、然も今日得る處は僅に滿鐵一本に過ぎないとあつては、實に呆れ返つて物も云へない。然し之には大なる理由がある。單に現狀に囚はれて悲觀するは尙早計だと謂はねばならぬ。

开處で我輩は滿蒙經營を論ずるの前提として先づその失敗の原因を探究し、所謂前車の覆轍を以て後車の戒めとなすの必要がある。之に就て我輩は從來の四大失策を擧げて之が答案となすであらう。云く、第一には鮮滿統治權の分離、第二には滿鐵本位の祟り、第三には西原借款の無謀、第四には西比利亞出兵の失敗、即ち是れである。

第一、大陸政策の遂行を計るには決して朝鮮と滿蒙とを分離して考ふべき筋合ではなかつた。此二者は元來密接不可離の關係にあるのだ。然るに歴代の政府は頻りに國際關係の困難なるべきを顧慮して遂に之を斷行し得ざりしその眞意は之を諒とするも、之が結果として終始政策の一貫を缺き、一切の經營施設が常に姑息的、且消極的に墮したるの非難は之を免かるゝことが出来ない。殊に滿洲に於ける四頭政治(陸軍、外務、關東廳、滿鐵)の弊害を現實に暴露せしむるに至つたことは實に千秋の恨事と謂はねばならぬ。

第二、滿鐵本位は取りも直さず大連本位である。此滿鐵本位即大連本位の結果は全滿蒙の利害を基礎とする支那民衆本位の鐵道敷設を絶對に拒否すると同時に、他の適當なる海口の修築にも盡く反對した。斯くの如き狹量なる政策方針は決して滿洲官民の好感を博す

る所以でない。彼の滿洲支那官憲が動もすれば日本の期待を裏切り、疾くの昔に實行され得べき商租權すら今尙諒解を與へざる如き、一は四頭政治の不徹底なる政策の結果であるとは云へ、畢竟狹量にして姑息的なる滿鐵本位即ち大連本位の祟りであつたと謂はねばならぬ。況んや滿鐵萬能の弊は我邦人の自由發展にも亦非常なる障害を與へて居る。一言にして之を評すれば滿鐵獨り肥へて萬骨悉く枯るの觀がある。

第三、西原借款は所謂二十一ヶ條の副産物にして當時の放漫無節制なる對支政策の現はれである。大枚壹億四千萬圓の巨額を一二軍閥の私争費に提供し、結局滅茶くんにされて仕舞つた。その内六千萬圓は滿蒙鐵道の借款に屬するも夫すら何處へ費つたか判らない。こんな馬鹿げた話があるもの乎。一體日本人は兎角お調子に乗り過ぎて困る。當時歐洲大戰亂の際、火事泥的に支那四百餘州が苦もなく我手に入るものゝ如く考へたのが間違の基だ。貧弱なる現代日本の獨力で龐大なる全支那を支配するが如きは空想も亦餘りに甚しい。老獪なる彼軍閥はこの空想を巧みに利用してマンマと大金を引出し勝手に之を費消して仕舞つたのだ。今更泣いても笑つても追付く話でない。日本が當時若し一切の空想を棄て、

堅實に一步／＼滿蒙經營にのみ専念したらんには、この一億四千萬圓がいかにも有力なる收穫を今日に貽し得たであらう乎。考へて見ても馬鹿くしくなる。然し笑ひごとではない。現在支那の動亂に對しても又復この種の誇大夢想病者が盛んに擡頭しかけて居る。此點は最も警戒を要する所だ。

第四、西比利亞出兵に至つては前項の夢想病者よりも一層輪をかけた大痴呆の計畫であつた。曾て某博士がバイカル以東は日本の領土たるべしと大言したことがある。爾來日本人は馬鹿に氣が大きくなり、列國との共同出兵にも豫約以上の大兵を送り、無慮拾億圓の軍費を棄て、何の得る所もなく、却て尼港事件の如き大失態を仕出かし、殆んど引込みが付かなくなつた。漸くにして軍隊の引上げと同時に、居留民は盡く放逐せられ、遂に最後の浦鹽の根據地をも失ひ、今日にては東部西比利亞一帶殆んど日本人の隻影すら留めざるに至つた。日露國交の回復せられて以來既に二星霜、森林、鑛山、漁業の三大利權も摺つた揉んだで一向埒が明かず、昨今漸く形式だけの取極めが出来た許りだ。而して最も重要な歐露との通商貿易に至つては前途全く見込がない。要するに日露修交の効果は結局零

である。従つて西比利亞出兵費の拾億圓は全然泥溝へ棄てたと同じ事になる。若し此拾億圓を以て滿蒙經營に投せん乎。我輩の希望する渾べての計畫は今日既に完成を告げて居るであらう。

我輩は此場合に一言する。理想は宜しく高遠にして雄大なるべし。然も現實は須らく小心翼翼たるを要す。東洋の大帝國、大亞細亞の盟主、全世界の統一、之を理想として叫ぶは固より可なり。亦夫れ位の勇氣がなければ世界の優秀民族とは云はれないであらう。然し之が實行を期せんとする場合には先以て現實的日本の脚下を直視することが肝要だ。

第四 對策の一 統制

滿蒙經營が我帝國の根本國策たる所以、及びその滿蒙經營が何故に失敗したるかの理由は、以上述ぶる所に依て、極めて簡單ながら略ぼ説明し得たりと信ずる。其處で問題は進んで然らば之を如何に處置すべきかである。苟くも帝國の根本國策たる以上は假りに現有勢力がいかに貧弱見るに足らずとするも、斷じて之を放棄すべきでない。萬一之を放棄す

るが如きことあらん乎。我帝國の傳統的國是を破壊して國家存立の基礎を殆くし、日清、日露の二大戦役を敢行し給へる明治大帝の皇謨を蔑視するの大罪を負はねばならぬ。

然れども亦この問題は決して輕々に論斷し得べき事柄でない。理由は兎に角、現在は外國の領土だ。主權は支那に在る。而して支那には今や更生の機運が動きつゝある。その支那をして日本の滿蒙經營を十分に諒解せしむることは可なりの難事業と謂はねばならぬ。之に對する絶好の機會は從來屢々當面し得たるも、我歴代の政府は事毎に機宜を失し、いつも流星光底長蛇を逸せしめた。要するに根本國策の觀念が當局の頭腦に徹底して居なかつたからだ。今後と雖も我當局が此點に覺醒せざる限りは、恐らくいつ迄經つても解決は出來ないであらう。乃ち先づ根本の腹を作ることが肝要である。

處で外交の機微に互る事項は餘り無遠慮に論議する譯には行かない。その邊は以心傳心に任かすとして、先づ公言して差支ない點より始めて見る。第一に滿蒙の經營は必ず朝鮮を基點として出發せねばならぬ。之が我輩の宿論である。假りに滿蒙を以て緩衝的獨立國が出來るとしても、或は我に永久的租借權を得るとしても、若くは單なる經濟的關係に過

ぎないとしても、その經營の大方針は毫も變更さるべきでない。現在の如く朝鮮を埒外に置いて水路直ちに大連と接續するやうな制度の下には決して根柢ある發展は望まれない。日鮮滿蒙の四者が緊密鞏固なる渾一體^{ワンイツク}を爲してこそ始めて根本國策が完成されるのだ。即ちすべての經營施設は皆この精神を基調として立案されねばならぬ。

次に滿鐵本位の萬能主義は全く時代錯誤である。元來滿鐵會社は英國の印度開拓會社に倣うたものと云ふ。その英國は該會社を根據として遂に印度全部を征服し併呑して仕舞つた。そんな大それた横着千萬な眞似が馬鹿正直の日本人に出來るもの乎。現に開業以來二十年、幾億の大資本を擁して有らゆる事業を經營し、一見滿洲王たるの權威を示すも、内實は姑息偷安を事とし、一步も圏外に進出するの勇なく、加ふるに稅政百出、常に内地政權者の喰ひ物となり、一種の伏魔殿として指彈されて居るではない乎。

夫よりも尙憂ふべきは滿鐵萬能の結果、我邦人の自由發展を阻害し、沿線數百里一として見るに足るべき民業の勃興し得ざることだ。滿洲在留の日本人は唯滿鐵附屬地の溫室内に立て籠り、支那人に對しては傲然として自ら優秀民族たるが如く振舞へるも、一たび圏

外に出づれば忽ち彼等に壓倒されて劣敗し、這々の體にて引下るを常とする。是れ畢竟滿鐵溫室育ちの弊である。滿鐵は宜しくその獨占的利權を開放して之を民業に移し、以て個人經營の企業を旺盛ならしむるの途を開くべし。五億圓の巨資を擁する一個の滿鐵會社よりも、二三千萬圓の民間事業が二三十個も林立して活躍する方がいかに有意義であらう乎を考へ見よ。况んや滿鐵それ自身も亦將來その特殊の使命たる新線路の敷設(次項參照)に於て、更に數億の資本を増すべき必要あるに於てをや。

鮮滿蒙を統制すべき機關の組織をいかにするかは茲に且らく明言を避く。何となれば滿蒙に對する支那の諒解如何に依てその方法に變化を生ずるからだ。根本國策の精神さへ決まつて仕舞へば機關組織の如きは一朝にして出來る。慌てることはない。

第五 對策の二 交通

人文の發達は交通より起る。是れは自明の理だ。上古の文明は海口又は河川の邊りに發生した。現代の文化は道路又は鐵道に依て奥地深く進入し、更に之を海口に導き出すこと

に依て發達して居る。即ち未開地を拓くには交通機關の整頓が先決問題である。道路開け、鐵道通じ、而して後四民茲に集まり、産業従つて起る。滿蒙經營の順序も亦この理に依るの外はない。

曾て日清戦争の後、露國は三國干涉の報酬として滿洲鐵道の敷設權と、旅順大連の租借權とを得た。然も彼は尙之に満足せず、更に進んで韓廷を強要し、鷄林縱貫鐵道を敷設してその終點を我對岸の鎮海灣に擬するに至つた。日露大衝突の端は即ち茲に發したのである。當時露人の鼻息頗る荒く、滿洲朝鮮の國境には數隊の測量班を派遣し、兩者を貫通する數條の大道路及び鐵道の建設を企て、既にその一部に着手したる程であつた。即ち彼は滿鮮經營を徹底的に遣る積りで居たのである。その志望の大にして然も用意の周到なる眞に驚くべし。幸に日露戦役の大勝により此計畫を阻止し得たるも、不幸その反對の結果を見ん乎。今頃は我帝國の本土も亦恐るべき運命に陥つて居たであらう。

更に最近外蒙及新疆方面に於ける赤露の大活動を見よ。雲烟萬里無人の大沙漠を物ともせず、先づ第一に道路交通網を張り、數千輛の自動車縦横無盡に駛走せしめつゝあり。

彼れは之に依て一は支那革命軍に莫大の兵器彈藥を供給し以てその活動を援助し、一は地方富源の調査開發に着手し或は土着民との通商貿易を盛んにやつて居る。外蒙赤化以來僅に數星霜、今や既に抜くべからざる根柢を築き上げたではない乎。此交通政策の實行に就ては、帝政時代の露人も、共產時代の彼等も、その戦法に於て毫も變りはない。

否啻に露人のみならず、歐米人の未開地に臨むや、すべて皆この筆法だ。南米に、南洋に、將た南阿に、白人種族の横行跋扈しつゝある無烟無人の森林地帯にも坦々たる大道は砥の如く縦横に開通せられて居る。然るに日本人の滿洲に於けるや、日露戦役以來既に二十餘年を経て、今尙依然たる滿鐵一本である。偶々支那人が某々線を敷設せんとすれば夫は滿鐵の競争線だと抗議して之を許さない。狭量小膽も亦甚だしい哉。滿蒙を封鎖して外資の流入を拒否するは必ずしも不可ならず。唯夫のみに汲々として自ら開發するの能力なくんばその結果や如何。丸で成つて居ない。

我輩想ふに將來鮮滿蒙の三者を一丸として構成さるべき交通網は少なくとも鐵道二千哩、道路四千哩(多くは内蒙にして自動車用)位を必要とするであらう。今一々之を指摘して

確なる材料を示すの自信は有しないが、試みに緊急已むを得ざる重要線路三四種を擧げ、以て滿蒙經營の輪廓を説かん乎。

一、北滿東部線 先づ第一に吉會豫定線の如きは疾くの昔に出来て居らねばならぬ線路である。現在吉林敦化間は漸く工事中だ。敦化延吉間も引續き起工せしめ以て速に全線の連絡を完成せしむべきは云ふ迄もない。然し我輩の茲に提唱する北滿東部線はそれとは全く別の新計畫である。即ち既成線延吉より北方寧安(寧古塔)を経て、更に東支線を超え依蘭(三姓)に到り、以て松花江の水運に連絡せしむるもの、延長約二百四十哩と算定する。此線路は會寧線に接續して北韓の要港清津に出て海路の連絡を爲し、北滿東部の開發に最も重要な使命を帯びて居る。その東支線以南は山地多きも森林礦物に富み、以北は平坦にして水田に適す。殊に寧安(寧古塔)は往時辣羯國の首都として古代文化の旺盛を極めたる所だ。上古の日本と交通頻繁なりし特殊の關係もあり、日本人に取つては懷舊の情切なるものがある。若し吾人が茲にその勢力を扶植して現代的文化の理想郷を現出し得ば、いかに快心の一事業となるであらう乎。

二、鮮滿中央線 元山の北咸興より左折して長津江に沿ひ、鴨綠江を涉り、長白山の中央山脈を突破して吉林に出で、更に長驅北進して哈爾濱に達す。此延長約四百二十哩と見る。該線路は朝鮮と滿洲との中心を貫通し、軍事上最重要なる價值を有す。更に之を經濟的に見るも長白山頭に横はれる千古密封の寶庫を開發すべき極めて有利の事業である。現今鮮滿の連絡は僅に南方に偏在する京義線の一本に過ぎない。他日吉會線成るも亦北方に偏し紆餘曲折を極む。然るに本線は單刀直入北滿の肺腑を貫き、その距離最も近し。往年帝政露國が計畫せし滿鮮縱貫鐵道は即ち是れだ。曾て吾人の舊友故國友重章氏はこの露國の暴舉に憤慨し、單身輕裝して長白山中に進入し、櫛風沐雨の辛酸を嘗むること數閱月、具さにその實情を究めて歸る。我輩乃ち彼の遺志を繼述し、爰に本線の敷設を提議す。具眼の士は恐らく之を輕々に黙過し得ないであらう。若し本線にして完成し、右翼は上記の北滿東部線に依り、左翼は既成の京義安奉線を以て、三道駢進の策を採らば、一朝重大の時局に遭遇するも決して周章狼狽するを要せざるべし。

三、北滿西部線 長春より西北に走り昂々溪に出で、東支線を超えて既成のチ、ハル線

に接続し、更に北進して墨爾根に到る。此延長約三百八十哩(チ、ハル線の中斷部を除き)である。本線は將來日本民族の發展すべき農村部落の中心を駛走する重要線路にして、同時に東支鐵道の仲介を要せず直ちに北滿の奥地に達し得る點に於て特殊の意義を發見し得るであらう。既に長春より農安に到る本線の一部は土人に依て着工の準備中とも聞く。總じて此附近の線路は流石に土人の着眼する者尠からず、グヅ／＼して居れば續々起工し來るやも知れない。然し夫等は強て抑壓すべきでなく、虚心坦懷、寧ろ之を獎勵して然るべしと考へる。又夫れ位の度胸がなければ迎も大陸經營の大事業は出來るものでない。日支の共存共榮は根本原則である。

四、内蒙連絡線 洮南より直線的に南下して通遼(白音太拉)に出て更に下つて打虎山に到り、京奉線に接続する線路は約二百哩、その海口を連山灣に求むるの計畫にして、之は滿鐵が並行線の理由を以て再三嚴重なる抗議を試みつゝある所だ。若しその背後に英米の資本的魔手が潜めるものとせば無論斷乎として之を排斥せなければならぬ。然し之と同時に日本が代つて之を敷設して遣ふことは極めて必要のことである。而して連山灣の修築は

是亦宜しく是認して可なるべく、大連本位の狹量なる政策は敢て之を固執せざるを賢明なりと信ずる。元來山海關以北は即ち是れ滿洲にして日本の特殊區域と認むべき所だ。大連以外に更に一港を設置するは決して無用の業でない。支那人の全般的諒解を容易ならしむる爲めにも、所謂共存共榮の原則に照らして寧ろ有意義である。此點に就ては後段更に一言を加へるであらう。

五、内蒙進出線 既成線通遼より西行して内蒙の奥地に進入する線路は少なくとも開魯迄の五十哩を鐵道とすべきである。開魯より岐れ、一は西南に走り、赤峰、熱河を経て北京に到るもの。他は直西を指して林西に入り、更に進んで張家口に達するもの。此二線は共に内蒙經營上頗る重要な意義ありと考へらるゝが、地理詳かならず、人烟亦稀薄にして恐らくは鐵道を敷設する程の價值なからん。此方面こそ赤露の外蒙政策に倣ひ自動車交通路を開くの輕便なるに若かじ。但し内蒙の王侯連中はいづれも日本に信賴するの念深きものあり、加ふるに彼等は外蒙赤化の侵略に對してその第一防禦線に立てる滿蒙擁護の大恩人だ。之を今日の如く疎略に取扱ひ殆んど無關心に放任して置くが如きは、滿蒙經營上



重大なる過失と謂はねばならぬ。此場合に於て敢て之を一言し置く。

二三

六、南滿連絡線 此目的の爲めに重要な線路が二つある。一は北方吉林より海龍を経て奉天に出づるもの、一は大連より東海岸に沿うて安東に到るものだ。前者は既に奉天海龍間を支那官憲の手に依て起工し、是亦滿鐵より嚴重なる抗議を受けて居る。此線路が貫通すれば吉林方面の旅客は奉天にて直に京奉線に移り、毫も滿鐵の御厄介にならずして北京天津方面に出づるであらう。その貨物も亦他日連山灣修築の曉には一直線に茲に集中し遂に大連の繁榮を脅かすに至るであらうと心配するのであるが、之も亦甚だ氣の狭い見だ。その理由は既に前項に掲げたれば爰には之を略す。後者の大連安東線は全然日本の見地の上に立案されたる線路だ。既に貔子窩迄は殆んど出來上つて居る。強て論議する程の價値もない。前者の未起工區間吉林海龍間は約一百哩、後者の未起工區間貔子窩安東間は約百三十哩である。

七、鮮内連絡線 滿蒙に於ける鐵道網を組織してその機能を發揮せしめんが爲めには、之と對應して朝鮮内部の鐵道連絡を完全ならしめねばならぬ。今試みにその二三を擧げて

見る。第一は元山線の一部に今尙開通せざる箇所がある。之はいかにも緩慢の沙汰だ。一日も速に竣工せしめ、以て京城より一路北進上記の北滿東部線に連絡せしむべきである。第二は平元線だ。是亦豫定計畫に屬するも未だ着工の計畫あるを聞かない。本線の開通は常に軍事上必要なるのみならず、經濟的にも亦朝鮮開發上有利なる事業であると考へる。第三は大邱より忠清北道を通過して京城に到る所謂京釜右翼線である。此線は經濟上よりも寧ろ軍事上に意義がある。釜山大邱間は複線として此右翼線に接続せしむる時は一朝有時の日、軍隊の活動能率は現在に倍加する。是亦速に敷設し置くを可とす。平元線は約九十哩、京邱線は約百五十哩に當る。

試みに上記各線を概計すれば左の如し。

區 間

距離

- 一、北滿東部線 (延吉依蘭間)
- 二、鮮滿中央線 (咸興哈爾濱間)
- 三、北滿西部線 (長春墨爾根間)

二四〇

四二〇

三八〇

二三

四、内蒙連絡線 (洮南打虎山間)

二〇〇

五、内蒙進出線 (通遼開魯間)

五〇

六、南滿連絡線 (吉林海龍間)

一〇〇

(魏子窩安東間)

一三〇

七、鮮内連絡線 (平壤元山間)

九〇

(京城大邱間)

一五〇

計

一、七六〇

以上は極めて概算にして無論實際上少からぬ異動を生ずるであらうが、單に滿蒙經營の輪廓を知るには之で十分だ。而して之に要する經費は一哩參拾萬圓として總額五億圓内外にて足るべし。その收支計算に至つては固より未だ成案なしと雖も決して見込なき線路にはあらず。開業後年所を經過するに従ひ遂には國家(或は滿鐵)の一大財源となることは決して疑ひない所だ。

八、道路 自動車用道路は内蒙を主とす。例へば前記開魯より熱河を経て北京に到るも

の、若くは林西を経て張家口に出づるもの、或は又洮南を中心とし、北は呼倫貝爾に、西は林西に、東は長春に達するもの、更に又海拉爾より起つて蒙古の國境に沿ひ庫倫に出づるもの、如き有望なる線路は頗る多い。然し夫等はすべて邦人發展の狀況に應じ漸次に計畫して可なり。今一々之を詳記せず。

九、海口 將來と雖も大連が第一主要港たるべきは無論だ。然し廣大なる滿蒙の天地を控へて海口僅に一ヶ處と限定することは餘りに貪慾である。我輩は更に副港として西部に對しては連山、東部に對しては清津の二ヶ處を認めんことを提議する。尤も必ずしも連山清津に限るとは云はない。その附近に於て更に一層適當なる箇處あらば夫で一向差支はない。要するに原則としてある。連山は從來久しく支那官民の希望する所、熱河、洮南、内蒙よりの出口として是非共必要を感ずる。清津は浦鹽以南日本領土に於ける唯一形勝の港だ。北滿一帶の策源地として、及び内地連絡の根據地として、極めて重要な役目を演ずるであらう。いかに滿蒙内地を開發するも、この海口の設備なくんば、所謂畫龍點睛を缺くに異ならず。

第六 對策の三 移民

滿蒙の經營は交通網(道路、鐵道、海口)の建設を以て前驅とし、屯墾移民の集結を以て後衛とし、以て徹底的に特殊地位の大根柢を固めねばならぬ。然るに滿蒙の移民は實際上難事中の最難事であり、之に對しては世間既に幾多の異論がある。從て完全に之が説明を爲し異論者を十分に諒解せしむることは、自分ながらも餘程の大仕事であらうと私かに考へて居る。

甲、大體論

先づ移民の大體論から始める。元來日本人は移民に對する根本觀念が間違つて居るやうだ。從來移民と云へば必ず人口問題の調節云々を口にする者が多い。處がその考が第一駄目な話である。論より證據は大正十三年六月末我同胞の海外在留者は僅に五十九萬四千人だ。然もその内十八萬四千人は滿洲在留者である。即ち残り四十一萬人が北米、南米、南

洋、及び本部支那等に散在して居る勘定になる。過去六十年間一生懸命努力したる結果が漸く四十一萬人に過ぎないとすれば、この年々増殖する一百万人(去年の數字)を奈何せんやである。逆も問題にも何にもなるものでない。

次には移民と云へば必ず我國富を増殖するもの、如く考へて居る輩がある。成程海外在留者の内地送金高は年々五六千萬圓の巨額に上り、國際貸借の關係にも可なり重要な地位を占めて居る。然し此種の送金者は移民ではなく主として出稼ぎ労働者だ。五千萬圓の送金は固より結構には相違ないが、之と同時に夫が排日の重大原因を爲して居ることを顧慮する時はその損得果して孰れ乎。宜しく一考して見ねばならぬ。

眞の移民は移住地に永久定着してその國家に歸順し、その國民に同化し、全然その國家の一員となるべきが原則である。夫でなければ結局排斥され、放逐されるに決まつて居る。處が全然外國人となつて仕舞ふならば一向日本の爲めにはならないことになる。元來移住を敢行する程の人物は、たとへ資力はなくとも、身體強健にして意志堅く、一廉の役に立つべき人物であるに相違ない。その人物が海外に去つて行くことは寧ろ日本の損失とこそ

なれ決して利益となる筈がないではない乎。此種の非難は往時合衆國の初期時代に於て盛んに移民を招致せし際、歐洲諸國に於ても既に論議されたる問題である。

更に又日本人は何處へ行つても必ず排斥される素質を備へて居るやうだ。夫は民族的觀念が餘りに強烈にして、容易にその國の土民と同化し得ないからである。之は日本民族としての貴重なる誇りであると同時に、移民としては不適當なる性格と謂はねばならぬ。近頃南米ブラジルにては日本人の評判が非常に宜しいと云ふ噂だが、之も十萬や二十萬位の内は宜からう。百萬二百萬となれば必ず面倒な問題が起るに相違ない。その場合に於て懸外萬里の異域に在る我同胞は到底國權の保護を受くるに由なく、結局見殺しにするの外はないであらう。尤も我輩は今日敢てブラジル移民を否認する者ではない。行かれる丈は行くがよろしい。唯大なる期待は駄目だぞと注意して置く迄である。

乙 局部論

轉じて局部論に移る。即ち滿蒙移民に對する直接反對論を研究して見る。此反對論は可

なり多いが、就中最も有力なるは左の二點である。第一、日本人は性來暖地を好む、滿蒙の如き沍寒不毛の處は逆も問題にならぬと云ふもの。第二、滿蒙には既に極度の忍苦生活に耐ふる多數の漢民族が居る。文化生活の向上せる日本人は到底彼等と競争は出來ないと云ふもの。即ちこの二つだ。

我輩は如上二個の理由は如何にも御尤も千萬だと一應首肯するであらう。然し同時に我輩は云ふ。そんな意苦地なしの日本人ならば前途到底見込みはない。今後は宜しく世界の優秀民族だとか、大亞細亞の盟主だとか、甚しきは王道を四海に布く抔と、途方もない駄法螺を吹くことは一切止めて、この豆の如き一小島内に塾居し、田螺かモグラのやうに縮こまつて死んで仕舞へと云はねばならぬ。諸君は果して夫で異議なきや否や。

先づ第一の問題だ。人間は寒地よりも暖地の方が生活し易い。一年の内半分は氷雪に鎖さるゝ難苦の寒地生活と、裸一貫で天然果物を喰らひつゝ吞氣に暮らして行ける暖地生活と、その苦樂輕重の差は云ふ迄もないことだ。然し其處が大切の問題である。人間が安逸を貪ると云ふその了見が既に間違つて居る。そんな奴は必ず劣敗者に決まつて居るのだ。

歴史在つて以來、暖地民族が寒地民族を征服し得た例が一つでもある乎。千古の英雄ナポレオンの佛軍すら、モスコに攻め入つて忽ち寒さに縮み上り、這々の體で逃げ歸つたではない乎。更に支那を見よ。國を建て、五千年、中原の脅威は必ず北方より來る。元と云ひ、清と云ひ、慄悍は胡虜の特性だ。獨り唐のみは稍氣を吐けるも、尙その版圖は到底元の廣大なるに及ばなかつた。結局南方は北方の敵でない。之は歴史的事實である。

現代世界の大勢は要するに寒地民族が暖地民族を征服して居るのだ。寒地は精神の緊張に適し、従てその民族は剛健である。暖地は筋肉の弛緩を來たし、従てその民族は懶惰に流る。剛健が懶惰を制するのは天の理數だ。近頃印度、波斯等の暖地民族が大いに覺醒しかけたことは固より喜ぶべきではあるが、先づ我輩の想像ではうまく行つて自國の獨立ぐらゐが關の山であらう。大舉して北歐諸國を蹴散らすが如き壯舉は果して幾千年の後か空想すら出來ない。之は決して白人種族の横暴を是認するの意味ではない。人類社會を高く處より批判したる科學的觀察に外ならぬ。

試みに百歩を譲り、日本人が暖地に向ふとして果して何處ぞに行く處でもあると云ふの

乎。十萬や二十萬位は隨處にあらう。百萬二百萬となれば全く八方塞がりではない乎。

濠洲ならば至極結構だと誰でも狙ひは付けて見るが、夫は大英帝國が崩壊してからの事である。彼れも愈々落日の悲運らしい。早晚時は來るであらう。然し腐つても鯛だ。一寸急の間には合はない。眞逆夫が爲めに日本から進んで日英戦争も遣れまいではない乎。アノ大きな家が空家になれば早速俺が這入るんだがナート、ボンヤリ指を啣へて見て居る馬鹿者もある。その内に自分の方がコロリと死んだら夫でお仕舞だ。

次は第二の問題である。日本人の文化生活は非常に昂上したるが故に到底漢民族の忍苦生活に對して競争は出來ないと云ふ議論は、確に一顧若くは三顧の價値がある。元來中部支那人即ち漢民族はその拜金主義に於て猶太民族と比肩し得べき世界中稀に見るの特異性を有つて居る。彼等は極度の簡易生活に甘んじ奮闘力戦倦むことを知らない。現に一例を擧ぐれば福島縣相馬郡雲雀ヶ岡に於ける高粱酒醸造場には多數の支那人農夫及醸造工を使用して居る。彼等は月給參拾圓、甚だしきは貳拾圓位にて生活し、尙その内若干の貯蓄を爲すが如き殆んど奇蹟的生活を營んで居ると云ふ。日本の勞働者が百圓以上の給料を得て

尙且つ生活に困る杯と騒ぎ立てる者とは實に天地月籠の相違だ。迎も一騎打では彼等に叶ふものでない。

その漢民族は多年内地動亂の影響を受け遠く海外に出稼する者が非常に多い。米國杯にて第一に排斥されしは即ちこの簡易生活の祟りであつた。處が滿蒙は彼等に取つて單なる國內移動である。決して排斥さるゝ虞れはない。其處で彼等は山東の一角より海を横切つて大連に上陸し、更に潮の如く奥地深く入り込む者が年々七八十萬人の多數だ。日露戰役以來二十餘年、滿蒙に移住したる者が既に二十萬人の多きに達して居る。迂つかりして居れば折角我々が滿蒙政策を確立する頃には、最早日本人の往くべき恰好の適地は殆んど無くなつて居るかも知れない。左ればこそ我輩は速に根本國策を確立せよと云ふのだ。

然し何と云つても滿蒙の天地は廣大無邊だ。その面積七萬五千方里、我が内地本土の約三倍に當る。之に向つて十分に詰めて行けば優に一億萬を容れ得るであらう。まだノ心配したものではない。寧ろ心配を要するは彼等との生活競争であるが之に對しては我輩一應反問する。一體日本人は果して眞に支那人との競争に打勝ち得ない乎。夫れは絶對的で

あるや否や。若し絶對的であるとすれば即ち支那人は日本人よりも優秀民族だ。云ひ換へれば日本人は劣等民族だ。優者が劣者に勝つは天理である。如何とも致し様がない。日本人は潔よく降参すべしだ。果して夫で宜い乎。

然し我輩の意見は反對である。日本人は優に支那人に打勝ち得る。亦打勝たねばならぬと考へる。夫は遣り方の如何に依る。此點に就て或者は云ふ、日本人は智力と財力に於て勝れて居る。この長所を以て支那人若くは朝鮮人の勢力を使役せば必ず目的を達するに相違ないと。之は一應尤もらしい説だが、まだノ幼稚な議論だ。第一そんな丁見では根本から駄目である。現に南洋タワツに於ける久原農場の結果を見よ。若くは内蒙に於ける大倉農場の成績を見よ。日本技師が洋風生活に納まつて悠々たる如き監督の下に何んで彼等が眞劍になつて働くもの乎。

况んや滿蒙の經營は日本民族をして牢乎抜くべからざる根柢を築かしめねばならぬ。是れ根本の第一義である。而してそれは要するに人間の數の力だ。金や智恵は一朝にして飛び去つて仕舞ふ。論より證據、中部支那の現状を見よ！

丙 集團移民論

斯くの如く論議し來れば殆んど際限はない。依て議論は先づ此邊で打切りとし、之より我輩の私案を述べて見る。尤も上記幾多の反對論は皆夫れ相當の根據がある。従て茲に述べんとする經營策は此等のすべてを引括めて一齊に解決し得べきものであらねばならぬ。私案の概要は左の如し。

先づ第一期を十年計畫として百萬人移殖の方針を立て、集團移民の形式を採ることである。一ヶ所一萬人前後とし、即ち約二三千戸の集團部落を滿蒙各地に於て百ヶ所許り選定し、一ヶ年十萬人位宛移殖する。之は最低限度の計畫にして且つ實行の可能性がある。出來得るならば三百萬、五百萬、多々益々可なりであるが、徒らに空想を馳せて大言壯語するも實際に益はない。我輩は先づ實現性に富める此百萬人計畫を以て満足するであらう。滿蒙には現に一千五百萬町歩以上の曠漠たる未開墾地がある（我内地の耕地全面積は僅に六百萬町歩に過ぎない）。一部落一萬町歩として百萬町歩あればよろしい。而してその部落

たるべき候補地の五ヶ處や十ヶ處位はすぐにでも間に合ふ所を我輩すら知つて居る。眞劍になつて調査すれば隨處に之を發見し得るに相違ない。此點は一切心配無用だ。

此計畫を實現する爲めには政府部内に滿蒙移民局を設けて全般の事務を管掌せしめる。土地の選定、地味の調査、耕作物の指導は勿論、道路及水路の開鑿、鐵道の連絡、衛生、教育、保安、娛樂等の設備は一切政府に於て之を行ひ、その運用行政は集團部落の自治機關に一任し、政府は單に之を監督するに止める。恣くすることが最も合理的方法である。

以上總體の費用は約五億圓位で立派に遣繰つて行けると思ふ。無論之は拓殖公債を發行する外はないが、一年に割當つれば五千萬圓宛だ。夫れも五六年經過すれば既墾地より多小租税も取れる。利子の補給位は出来るであらう。西比利亞出兵の如く丸切りドブに棄て、仕舞ふものとは全然譯が違ふ。現在の我財政的實力より見て此れ位のこととは奮發して然るべしと考へる。

第一期百萬人の集團移住を終れば、更に第二期に移るのであるが、此時になれば既に之に隨伴して四五十萬位の散在的自由移民が必ず出來て居るに相違ない。即ち在來の日本人

を加へてザット二百萬近くになる。二百萬の日本人が滿蒙各地にウント腰を据ゑて居れば所謂日本の特殊地位も稍目鼻が付きかけたと云ふことが出来よう。

此方法に従へば滿蒙の寒地生活も左迄苦痛を感せず済む。人間到る處青山ありとは云へ、放浪無援の孤獨生活では耐まつたものでない。一ヶ處に一萬人宛も集結して居れば第一に氣強い心持になる。而して其處には排日の心配もなく、漢人との生活競争も起らない。況んや國權の保護は十分に行届き、寧ろ國防第一線に立つの意義を生ずる。此點は懸外萬里の異域に移住するよりも遙かに優つて居る。殊にその生産物は直ちに内地同胞の生活必需品として歓迎せられ、自然に帝國經濟上の自給自足を實現するに至るであらう。

恁くて日本民族が漸次加速度的に大陸方面に向て發展し行くとせよ。元來日、鮮、滿、蒙、ブリヤード、トルキス等は皆是れ同一系統のアルタイ族だ。この亞細亞大陸の中心地帯を横貫する廣濶なる一線が民族的に結合せられ、爰に一大勢力が完成せらるゝ時、吾人の大使命は果して如何なるものとなるであらう乎。深く考慮する迄もなく直覺的にすぐ判ることだ。吾人同胞の發展すべき進路は遠き北洋の氷山雪野でもなく、若しくは遙か南洋

の瘴澤蠻地でもない。胡沙吹く風は強けれども、英傑デンギス汗の武を練りし發祥の地、茲に世界最新文化の理想郷を現出せしむるこそ是れ我大和民族本來の大使命であらねばならぬ。

第七 對策の四 産業

滿蒙政策の爲め國家が直接に經營すべき事業は、交通機關の完成と、屯墾移民の集結とを以て二大眼目とする。蓋し此二者は餘りに龐大なる資本を要し、利益の回收亦容易ならず、到底民業として不可能なると同時に、其事業の性質が滿蒙開發の根柢たるべき基礎工事なるが故である。然しその他の産業に到つては宜しく民業を主とし、政府は單に間接の保護を加ふれば可なりと信ずる。猥りに干渉を加へ、或は直接に餘計な世話を焼く扱は絶對的禁物である。

世人の滿蒙を論ずる者、必ず先づ滿蒙に於ける經濟的資源の豊富無盡藏なるを稱するが常だ。然り、滿洲に於ける森林、鑛物、内蒙に於ける陸鹽、此三者の如きは正に世界の驚

異に値ひするものである。彼の東方長白山一帯、西方興安嶺奥地に横はれる廣大なる森林は、西比利亞及び伯拉爾のパラナに於けると共に、現代世界に残されたる三大森林として非常に珍重せられて居る。この千古密封の寶庫を拓くこと丈でも既に重大なる價值がある。

况んや又かゝる神祕的境域に於ては必ず貴重なる礦物を藏するものだ。金、銀、銅、鐵、石炭等の埋藏量は到底之を測り知ることが出来ない。現に南滿の一部に於ける撫順炭、鞍山鐵の如きすら彼の通りではない乎。加ふるに鴨綠、圖們、松花、三大江の縱横に環流する所、水利電力の豊富なる亦想像するに難からず。産業發展の要素は悉く具備し、唯何人か來たつて之を開發せんことを待つのみである。北滿寧古塔附近は前記の如く往時の辣羯國にして古代文化の隆盛を極めたる所だ。茲を中心として現代的理想郷を建設することも亦男性的快事業たるを失はず。若し夫れ清津若しくは羅南を根據地として北滿一帯の利源を開發し來らば、單に此一事のみにても我日本の享くる利益は恐らく筆舌に盡し難きものがあるであらう。

内蒙の事業は屯墾の外、牧畜と陸鹽の二者である、就中陸鹽は到る處に散在せる干湖の

邊り、白皚々として堆積眞に無盡藏、その壯觀は之を目撃せざる者の到底想像し得ざる所だ。鹽は曹達工業の原料として缺くべからざる重要品である。内地の鹽田既に殆んど滅び、青島、關東州の外鹽も亦我需要を充たすに足らざる現状に於て、内蒙陸鹽の開發は最も重要な役目を演ずるものと謂はねばならぬ。

然れども要するに此等の産業は皆民間の力に依て遣り得ることだ。政府としての任務は第一に交通機關の完成である。古人云ふ、渠成つて水通すと。即ち先づ溝渠を造るべしだ。民業必ずや之に隨つて起るに相違ない。その民業勃興の結果が亦同時に内地人の進入を促すことにもなる。我輩が第一期移民計畫の完成する頃には散在的自由移民が四五十萬位は在るだらうと論せしは、即ち此意味を一部に含んで居るのである。

第八 結 論

茲に本論を終結するに方り我輩は更に繰返して云ふ。滿蒙政策は我帝國の傳統的國是である。國防も、經濟も、將た人口問題も、皆この滿蒙經營に依てのみ始めて解決される。

是れ即ち根本國策だ。帝國外交の大方針は爰に在る。對支は勿論、對露も、對英も、對米も、すべて皆この根本國策を基礎として進まねばならぬ。是れは自明の理である。

支那は謎の國だ。現在の革命運動は或は幣原前外相の所謂新支那の陣痛期であるかも知れない。然しその陣痛期は果して幾年續くか、若しくは幾十年續くかを豫言し得る者が何處ぞに在る乎。歴史は繰返すものである。支那の歴史には統一的王朝の二三代を経過したる後に於て必ず群雄割據の時代が來て居る。而してその期間は短かきも五十年、長きは二百年にも及ぶ。夏殷周の後に春秋戰國あり。秦漢後漢の後に三國あり。兩晋の後に南北朝あり。隋唐の後に五代あり。果して然らば宋元明清と續きたる後の今日の動亂期は恐らく想像するに難からずである。我輩は支那の爲めに之を惜み、その國民に對しては同情を禁する能はずと雖も、天命は之を如何ともすべからず。只時の到るを俟つの外はない。

然し日本には日本としての大使命がある。いつ迄も唯ボンヤリとして待つて居る譯には行かない。日本の滿蒙經營は獨り日本の利益の爲めのみではない。東洋平和の爲めにも亦避くべからざる緊急事業である。更に大きく云へば滿蒙に最新文化の理想郷を現出せしむ

ることは、現代の誤れる白人文明に對して偉大なる實物教訓を與ふることにもなる。是れ即ち本論を起草したる所以である。

昭和二年四月第一長節の日 牛込市ヶ谷の草庵に於て

太虛道人 阪東宣雄識

東京市牛込区市ヶ谷田町二ノ六
阪東宣雄

524
647

昭和二年六月十三日印刷
昭和二年六月十六日發行

〔定價金貳拾錢〕

編輯兼發行人

東京市芝區南佐久間町二丁目十七番地

小 谷 保 太 郎

印刷者

東京市芝區愛宕町三丁目二番地

村 井 兼 松

發行所

『日本及日本人』

政

教

社

東京市芝區南佐久間町二丁目十七番地

電話銀座二〇一三番
振替口座東京一一八四四番

